

祝 大口れんこん GI登録 地理的表示(GI)登録報告会 兼 出荷式典



特集

農業情熱ランナー～挑戦への道～
農家と学生をつなぐアプリ

[information]
稲わら・籾がらを使って、
田んぼを元気にしよう！
死亡事故多発しています！
ビニールハウス等の倒壊に注意！
STOP鳥獣被害！
鳥獣捕獲の担い手を募集しています

[農政 VOICE]
はじめまして

中之島地域の特産品「大口れんこん」が「国のブランド保護制度」に登録されました

令和3年5月31日付 農林水産大臣登録第109号

国のブランド保護制度である地理的表示（GI）保護制度に、「大口れんこん」が長岡産の農産物として初めて登録されました。

この制度は、高い品質と評価を獲得した地域独自の農産物を国の財産として保護する制度で、登録の証として日の丸と富士山をモチーフとしたロゴマークをつけることができます。

現在、松阪牛や夕張メロンなど108の産品が登録されており、県内では「くろさき茶豆」「津南の雪下にんじん」が登録されています。



寺泊地域が中山間地域等直接支払制度の対象地域に新たに加わりました

令和4年度の取組から交付金の対象となります

今年度行われた地域振興関係法の改正等により、中山間地域等直接支払制度の対象に、寺泊地域が新たに加わりました。

この制度は、農業生産条件の不利な中山間地域等の集落営農（個人は不可）に対し、農用地の傾斜や面積に応じて一定額を交付する仕組みです。

交付対象農用地の主な要件

- 傾斜を有すること（田は1/100以上、畑は8°以上）
- 農振農用地であること
- 5年間維持する見込みがあること

交付金の使途は、集落の活動経費から個人への配当まで幅広く設定できるので、集落の実情に応じた活用が可能です。制度に関するご相談・お問い合わせは下記担当課までご連絡ください。

問合せ：長岡市農水産政策課農村政策係 TEL：0258-39-2223

稲わら・籾がらを使って、田んぼを元気にしよう！

●稲わら・籾がらは貴重な有機資源です。

稲わら・籾がらは焼却せずに、すき込みや堆肥に利用し、環境にも人にも優しい米づくりに役立てましょう。

- 稲わらは、地力の向上に効果が見込めます。
- 籾がらは、ケイ酸質資材として活用できます。

※秋すき込みは、次のポイントに注意して行いましょう。

秋すき込みのポイント

- 地温の高い10月20日頃までに行いましょう。
- 5～10cm程度の「浅うち」にしましょう。

稲わら等の焼却は...

※焼却（野焼き）は一部の例外を除き原則禁止されています。焼却による煙は、車の視界を遮り重大な事故を引き起こしたり、地域住民の健康への被害の原因となります。稲わら等は焼却せずに、土づくりに活かしましょう。



死亡事故多発しています！

令和2年度に県内で発生した農作業死亡事故のうち、半数以上は市内で発生しています。また、今年も5月に、走り慣れた農道から誤って転落し死亡する事故が発生しています。今一度、危険が潜む箇所の確認を行い、自分の技術・体力を過信せず、より慎重な作業を心がけるとともに、声を掛け合い事故を防止しましょう。



ビニールハウス等の倒壊に注意！

令和2年から3年にかけての大雪により、ビニールハウスの倒壊が多数発生しました。栽培を終えたビニールハウスは、ビニールを外したり、降雪前に点検・補修を行うなど適正な管理を行いましょ。管理が適正でなかった場合は、災害復旧事業の補助対象とならないことがありますので御注意ください。



STOP鳥獣被害！鳥獣捕獲の担い手を募集しています

長岡市では、カラス・イノシシなどによる農作物被害、クマなどによる人身被害を防止するため、「鳥獣被害対策実施隊」を組織し、鳥獣捕獲に取り組んでいます。

ベテランハンターから捕獲技術を受け継ぎ、市民生活や農業を守るため鳥獣被害対策実施隊に加入して下さる方を募集します。

狩猟免許取得の費用等については補助制度を活用できますので、意欲・興味のある方は、是非お問い合わせください。

お問い合わせ 鳥獣被害対策課（TEL39-2348）



はじめまして

長岡市農林水産部長 北村 清隆

本年4月に財務部管財課から異動してまいりました。農業関係の仕事は、約15年ぶりですので、知識も経験も過去のもので、皆様のご指導、ご協力をいただきながら精一杯取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

私は川口地域で生まれ、大学の4年間以外は川口から離れたことがありません。昔でいう兼業農家でしたので、7反ほどの水田を週末に耕作し、20年以上前に知人に耕作をお願いしましたが、生まれてから米を買ったことがありません。

耕作していただいている方は、地域内の担い手として多くの農地を耕作していますが、条件不利地が多く、家族での作業のため農繁期の作業は特に大変なようです。

長岡市では今年から「農楽仕事(のらばいと)」のサービスを開始しました。経営規模を拡大し機械を大型化しても、機械の

性能が向上しても、最後は「人の手」が必要な農作業の人手不足の解消のため、多くの方からご利用いただきますようお願いいたします。

さて、いよいよ収穫の秋になりました。今年の作柄はいかがでしたでしょうか。皆さんの日々の研究・努力で「長岡の米は美味しく、安全・安心」との評価をいただいています。引続き品質の向上と「売れる米」の生産とともに、米以外の作付けにより、農業経営の安定に取り組んでいただくとともに、「のらばいと」を利用して秋作業の軽減・効率化に取り組んでいただければと思います。

話は変わりますが、世間では「SDGs」が盛んに叫ばれています。農業においても多くの取組みが可能ではないでしょうか。日々の小さな取組が、「持続可能社会」に役立つことでしょうか。優良な農地を、優秀な技術を、そして美味しい農産物を次世代に繋いでいくためにも、頑張っていきたいと思います。



農家と学生をつなぐアプリ

人手を探している生産者とアルバイト先を探している学生をつなぎ、生産者は「人手の確保」、学生は「生活費の確保」という両者が補い合える仕組みを定着させるために、長岡市は2021年3月に生産者と学生を結びつけるアプリ「農業仕事（のらばいと）」をリリースしました。

今回のアグリロードでは、実際に「のらばいと」を利用してくださったお二人にお話を伺ってきました。

Interview 01
石橋一寛さん
百姓五代目又太郎 代表

利用したきっかけ

長岡地域で稲・大豆・小麦の栽培を行っている石橋一寛さんは、多いときで8人のアルバイトに来てもらうこともあり、「のらばいと」を大いに活用していただきました。「慢性的に人手は不足していましたが、冬の雇用が難しいこともあり、忙しい春から秋に来ていただける方を探していました。アルバイトの募集は初めてでしたが、スマートフォン入力も簡単で、予想以上に早くアクションがわかりました」

アルバイトを雇うことに対する農場スタッフの方々の反応は、とまごいはありませんが興味を持っているような表情でした。

Interview 02
荻野竜輝さん

知識ゼロでアルバイト

いざアルバイトを始めてみると、農作業は知らないことや難しいことがばかりで戸惑ったと振り返ります。

「今まで農業に触れたことがなかったので、日々食べているお米の作り方さえ全く知りませんでした。また、作業の感覚をつかむことが難しく、慣れるまで手こずりました。例えば田植え作業一つにしても、田植え機で苗を真つす、植えることが最初はできなかったです。農作業は簡単ではないことを改めて知るきっかけになりました」

そう振り返る荻野さんですが、最初は苦手だった田植え作業を、苗の枚数を指示とおりに調整できるまでに成長したと、石橋さんから褒められてうれしくなりました。

機械作業を任せられるまでに



アルバイトを雇ってみて

「来ていただいた方には、運転免許や作業経験に応じて手作業も機械作業もどちらもやっております。トラクターや田植え機の乗り方は特に慎重に教えてきました。ベテランに比べれば未熟さは当然ありますが、それでも皆さん若いので、コツを覚えるのが思ったよりも早く、十分戦力となっています。またケガ防止の意味でも、なるべくヘルメットと組ませて現場に当たらせています。農場スタッフも、若手に教えることで作業の振り返りができているように見えました」と石橋さん。

持ちつ持たれつ

アルバイトに来てもらうことで人手不足が解消し、農家の皆さんが助かることはもちろんですが、雇う側がアルバイトの役に立っていることもあると石橋さんは話します。

「以前、青年海外協力隊員としてアフリカのウガンダに派遣予定の方がアルバイトに来てくれました。現地では稲作に携わるといふことで、当農場の経験が役に立つと言っていたので、これからの活動の役に少しでも立てたら嬉しく思います」

いつか、国際貢献につながる人材に成長してほしい、と笑顔で話されました。



機械を1人で動かしている荻野さん

農作物に対する考えの変化

今まではお米や野菜を何気なく食べてきたという荻野さんですが、農作業に携わったことで農作物に対する考えが変わったと話します。

「最近はまだ食べるだけではなく品種や産地、旬を考慮するようになりました。今年の新米は、僕も農作業に携わった石橋さんのお米を食べて、できれば実家に送って家族にも新潟のおいしい新米を食べてほしいです」

継続が必要

荻野さんが農業アルバイトをする上で意識していることを伺って、継続するのだと言いつつ、心温まるエピソードを話してくれました。

「ある日、苗から芽が出たタイミングと出勤日が重なったことがありました。苗箱を並べた翌日のことでしたが、芽が出ていないことに気づいたときは嬉しかったです。それからアルバイトのたびに苗の成長を見ることが楽しみの一つになりました。頻繁に継続して来ようと思わないと、日々移行く農作物の小さな変化に気づけないし、こんな感情も味わえないと思います」

最後に、アルバイトを通して農業の大変さと面白さを学んだ荻野さんから、農業アルバイトをこれから始めようとしている人へアドバイスをいただきました。

「農作業はそのたびごとによって作業現場の状態や作業内容が変わるので、頻繁に継続してアルバイトに来ないと作業を覚えることができませんし、農業の楽しさや面白さを実感することはできません。これから農業アルバイトを始める人には、ぜひ継続を意識してほしいと思います」

お忙しい中にも関わらず、快くお話を聞かせてくださいました。石橋さん、荻野さん、ありがとうございました。

「のらばいと」の求人掲載数はまだまだ少なく、アルバイトをしたい人がいても動き口があまりないのが現状です。

「のらばいと」を利用する認定農業者の方を増やすことで需要と供給のバランスをうまくとれるようにすることがこれからの課題になります。

慣れないことをするのは気が引けてしましますが、新しい取り組みは新しい風が吹くの、認定農業者の皆さんは思い切ってください。利用してみてください。



作業の仕方を教えている様子